

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600325		
法人名	社会福祉法人五島会		
事業所名	グループホーム福寿園		
所在地	五島市吉久木町907-1		
自己評価作成日	令和7年6月1日	評価結果市町村受理日	令和7年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 7年 7月 14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とのコミュニケーションを大切にしている。具体的には、利用者の気持ちを考えながらコミュニケーションを取っている。入居者の便秘が多いことから、どうしたら薬に頼らず便秘を減らせるか？ということに着目して、①水分補給②運動の2点について取り組んでいる。①は1500/日を目指して取り組み、飲むための工夫として味付けしたり、お茶やジュースなども取り入れている。②については、運動として歩くことに加え屈伸運動や腹部マッサージなども取り入れている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、今年度の介護目標“入居者の視点に立ち本人の想いをくみとった個別ケアを行う”を全職員で策定している。職員は、本人が発した言葉の中から好みや苦手な物を把握し、家族の希望や意見を面会時や電話で聞き取り、いずれもノートに記して共有化を図っている。介護計画は、評価、課題分析の他、理学療法士による運動機能の促進等、入居者のQOL向上に繋がるPDCAサイクルが確認できる。職員は、人生の先輩である入居者に教を乞いながら、収穫した玉葱や芋を皆で賑やかに調理したり、日々のマンネリ化を防ぐ為、アイデアを駆使し、その日、その時に入居者が楽しめるよう支援している。日々の楽しい生活の様子は、ホーム便りとして家族に届き、信頼、安心に繋がっている。食事は職員手作りで、入居者ができる手伝いを自分のペースで行っており、介護目標である“個別ケア”の実践が着実に根付き、入居者、職員の笑顔が見られるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します」を理念として毎日、朝の申し送りで唱和している。	今年度の介護目標“入居者の視点に立ち、本人の想いを汲み取った個別ケアを行う”を全職員で設定し、振り返りながら達成度を検討している。職員は、一人ひとりに優しい言葉掛けと、見守り寄り添う介護により、入居者と信頼関係を築いている。マイペースで快適な暮らしができて入居者の様子から、理念の浸透が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老健での小学生との交流会に参加したり、お盆には青年団に来園してもらい、リビング室で念仏踊り「ちゃんこ」を踊ってもらったりと交流を行えた。	隣接の法人介護施設で毎年恒例の小学生との餅つき大会や芋掘り、栗拾い行事に、入居者が参加しており、肩もみ等の触れ合い交流がある。盆は、リビングにて青年団が“チャンコ踊り”を披露し、楽しんでいる。恒例のトライアスロン大会では、入居者も地域住民と共に、沿道に出て応援する等、交流が途絶えないよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームで行った認知症の研修を運営推進会議で伝えている。家族との会話の中でも伝える機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告を行い、意見も伺い取り入れている。	2ヶ月ごとの対面会議では、地域代表や市職員の他、家族は交替で参加し、入居者も1、2名が参加している。別資料の事業実績、計画報告への感想や質問、ミニレクリエーションのアイデアや花の開花状況等、意見をサービス向上に役立てている。ただし、欠席している家族には、議事内容を詳しく伝えてはいない。	議事録を通じて、運営推進会議の内容を周知し、家族の関心が持ち、多くの意見を聴取することに繋がると考えられる。意見をサービス向上に活かす更なる取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話で、分からないことは質問し答えを頂いている。	書類等提出物や事故報告は、管理者が、市担当窓口にて行う他、担当職員からの折り返しの質問に回答したり、運営上の疑問点は、都度電話で尋ねている。介護度の変更申請にケアマネージャーが、担当者に連絡し、家族に情報提供する等、行政とは、日頃から連携を図りながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月職員が交代で身体拘束についての研修を行っている。何が身体拘束にあたるのか話合っている。	年2回、法人の身体拘束適正化研修に、全職員が参加している。ホームではその資料をもとに、2ヶ月毎に、身体拘束適正化委員会を開催している。また、職員が交替で講師となり、本廃止委員会を開き、支援の在り方やスピーチロック等、入居者の状況に照し合わせ毎月議論している。法人をあげて拘束のない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回、職員が交代で担当して研修を行っている。施設でのケアについても虐待にあたらないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域運営推進会議でも議題の1つとして取り上げ話をを行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、利用約款、重要事項説明書を必ず説明し、同意後に署名、押印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。直接会話した時や電話でも個別に意見を伺っている。	ホームだよりを年に7回発行しており、入居者の笑顔の写真と職員が手書きで日常生活の様子や行事での楽しい雰囲気などを伝えている。面会する家族が多く、現在は玄関にベンチを設置して行っている他、県外の家族には電話で要望などを聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやスタッフ会議で職員の意見を聞いている。その意見を主任者会議で伝えることができる。	管理者は日頃から職員の声を聞く機会を設けており、聴取した内容は法人の主任者会議で検討している。母体法人が企画する研修会にはほとんどの職員が出席し学ぶ機会となっている。資格取得のために参考資料を提供したりアドバイスするなどサポート体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数による表彰や有給休暇の取りやすさなど、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に外部講師を招いたり、オンラインで研修を受ける機会を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入っていて、ケアマネの他施設との勉強会で交流を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会話の中で本人の要望や心配事を話してもらえるように、本人からの言葉を大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に何か知りたいこと、不安なことがないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に聞き取りを行い、本人や家族の必要としている支援を見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皿洗い、野菜の皮むき、調理、洗濯物干し、洗濯物たたみ等、本人の好む出来る事を行ってもらうことで本人の意欲ややりがいを育てよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来園した際には、本人についての話を家族から聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚から本人の好物が送られてきたり、直接持ってきてくれることもある。外出した際、馴染の美容室に行っている方もいる。	家族、親戚の他、同業者の友人や神父が訪れている。家族は甘酒や菓子など本人が好きなものを持参しており、本人と会話する機会となっている。選挙の投票は希望があれば投票所まで送迎している他、訪問美容だけでなく、家族の協力を得て、馴染の美容室での染髪に出掛ける入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って会話を取り持ったり、何人かで一緒に作品作りや日常の洗濯物たたみ等を行ったりして関わりあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もこれまでの関係性を大切に、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に思い出や暮らし方の希望、意向の把握に努めている。入居後も定期的に聞き取りをしている。	ホームでは、入居者を苗字にさん付けで呼んでいる。職員は、毎日入居者と会話する機会を持ち、本人の意向を聞き取っており、その内容は個別の記録用紙に記録し、職員間で共有して会話や支援に役立てている。特に本人の得意なことを見つけ、力を発揮する機会を設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いて、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に記録し、心身状態の変化は特に職員全員で把握できるよう申し送りでも伝え合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で月に2回カンファレンス・モニタリングを行い意見を出し合っている。家族にも電話や面会時に意見を聞いている。	本人・家族の意見を纏めたノートを作成している。毎月、全職員で行うモニタリングやカンファレンスと理学療法士の助言を基に、ケアプランを見直している。体調面の管理や運動機能、趣味の継続等、意見の反映があり、QOLの向上に繋がるプラン設定であることが、詳細な記録から確認できる。家族了承のもと実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理票、排泄チェック表、水分チェック表、ケアプランチェック表等記録を行なっている。介護日誌にも日々の様子や支援した内容を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を大事にして、その時々で適切なサービスを受けられるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の広報誌の情報を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を優先してかかりつけ医を決定している。	入居以前のかかりつけ医を継続しているが、入居後に家族の希望により、協力医への変更もある。歯科は往診があり、他科は家族が支援できない時は、ケアマネジャーが支援し、受診結果は家族と共有している。医療連携看護師は、週1回の訪問時に職員の相談を受けたり、主治医と連携を図りつつ適切な医療支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師の訪問があり、気づきを報告・相談している。訪問とは別に電話でも相談することがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はその日のうちに、遅くとも翌日には介護サマリーを提出している。早期退院できるよう病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族との話し合いを行い、事業所で行える事を十分に説明し方針を決めている。	契約時に、重度化した場合における(看取り)指針を基に、家族に説明し同意書を得ている。ホームでは暫く看取り支援の経験はなかったが、主治医から職員の不安、緊張の軽減や助言、訪問看護師による細かい支援の指導を受け、現在1名の看取り支援を行っている。職員はターミナル研修を受けており、知識習得に努め取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急時の対応マニュアルを作成している。定期的に研修を行い、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回総合訓練を行っている。その中で消火や避難の方法を身につけている。隣接する老健施設にも参加してもらっている。	年2回、消防署、消防設備会社立会いの下、夜間想定総合火災訓練と土砂災害の避難訓練を実施しており、隣接施設職員の応援体制がある。職員会議でも、年4回災害対策を話し合っている。水や食料は法人で整備し、個人情報の非常持出しは更新している。ただし、訓練後の改善点を盛り込んだ自主訓練実施がない。	訓練後の反省点を踏まえ、訓練内容を検証し、防災意識を高め、入居者や職員の命を守るために、より現実的な訓練実施に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ会議や研修の中で、言葉遣いや対応について話し合っている。	職員は入居者への言葉遣いに気を付けており、本人の人格の尊重に努めており、気になる言葉遣いは職員間で注意喚起している。排泄や入浴など羞恥心に配慮し、食べこぼしは迅速に更衣を支援している。プライバシー保護に関する研修があり、職員は守秘義務も含めて理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものや行きたい所、欲しいもの等、希望を聞いて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、入浴日や起床時間も希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて愛用品を使用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の野菜の皮むき等の他に、お好み焼き作り、お焼き作り、ケーキ作りも企画して食事を楽しむ事が出来るよう支援している。	毎日の食事は、職員が週に一度購入する食材を使って、入居者に食べたいものを尋ねながら調理して提供している。キッチンには数名の入居者も立ち、野菜の皮むきや調理を手伝っており、入居者が食事の際は、「いただきます」と発して皆で唱和している。行事食も多彩で、食事は入居者にとって楽しみな時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックを行っている。お粥や刻み食、ゼリー等状態に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。定期的に歯科医にチェックしてもらっている入居者もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、必要な人には声かけや排泄介助を行っている。申し送りや会議で支援内容の検討を行っている。	職員は入居者毎の排泄チェック表を付けており、定期的に誘導している。布パンツで過ごす入居者も多く、自立して排泄できる入居者についても気にかけてチェックしている。ポータブルトイレは夜間帯のみの使用を基本としており、使用の都度洗浄している。パッドサイズは本人に合ったものを検討し、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を増やすため、好みのものを提供したり工夫している。ホットパックや腹部マッサージを行ったり散歩の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせて入浴日を変更、入浴の順番も入居者の希望を優先している。	夏季は入居者の希望に合わせてながら、2日に1回シャワー浴として、汗をかいた時にも臨機応変に支援している。また、毎日下着を更衣し清潔保持に努めている。冬季は脱衣室に暖房を付けて温め、ヒートショックを起こさないように配慮している。入浴時間は本人が昔話から職員と会話する楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝したり、居室でテレビやラジオを聴いたり編み物をしたり、本人の希望に沿って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は介護記録、申し送りノートに記入し全員が確認している。カンファレンスやモニタリングでも話をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや魚を捌く等、1人ひとりの力を活かした役割を支援している。本人の好む飲食物の提供、テレビ番組(DVD)の視聴等それぞれに合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、希望を聞いて外を散歩している。ドライブに行くこともある。	年間を通して、季節の花見等のドライブを企画し、車椅子の入居者も一緒に楽しめるよう数台の車輛を使用し、出掛けている。蓮の花の見物では、ハンバーガーを食べるなど日常の生活の延長がみえる。敷地内の畑では、玉葱やさつま芋を栽培しており、入居者も一緒に楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金から欲しい物を職員に頼んで購入したり、一緒に買い物に行く入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を支援している。届いた手紙を渡し、希望があれば読んで伝えることもある。携帯電話を持っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が多く明るい雰囲気、広さも十分にある。中庭に花も咲いていて季節を感じることができる。	明るく開放的な窓は、簾で日差しの調整を行っている。年1回、床のワックス清掃と、職員による毎日の掃除機や拭き掃除により、共有空間は清潔に保たれている。中庭の花や植物は、心が癒され、壁面には季節の切り絵や、入居者の写真と共に本人手書きのコメントが添えられており、アットホームな穏やかな暮らしぶりが確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲むようにソファが置いている。窓際にもソファがあり、静かに過ごすことも出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が自由に居室を飾ることができる。写真やテレビ、ラジオ、本、宗教の品物等本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室はベッドや布団、椅子の他、収納庫と洗面台が備えてある。テレビや置時計、信仰する宗教の飾物、文学のCDセット、壁にはひ孫の家族写真等、馴染みの物で整えている。転倒による怪我防止にマットを敷き詰め、安全に配慮した居室がある。職員による毎日の清掃で、清潔で落ち着ける居室となるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体に手すりがあり、安全に歩いて過ごせるよう工夫されている。居室に名札があり、自分の部屋が分かるようになっている。		